

棚田水車米の魅力



「水車米」+「棚田米」
↓
うま味が違う
「棚田水車米」



「水車米」
精米機は圧力をかけて高速で摩擦するので高温になる。急激に高温になると米のうま味であるでんぷんが熱に弱く変質する。
一方の水車米は、時間をかけて杵と臼で精米するので温度が上がらず、でんぷんがほとんど変質しない。



「棚田米」
本郷地区の棚田は、石積みの棚田のため日中は石積みからの放射熱により温度が高くなるが、夜間は標高300メートルの高冷地のため、気温が低くなる。気温の寒暖差がおいしい米を育てる。山からの清らかな豊富な湧き水で栽培するため、おいしいお米が収穫できる。



上根・向山 ウォーキング探訪 マップ

平成17年に作成した地域マップの中から、潜龍峡ふれあいの里を拠点として、散歩できるルート(上根ルートと本郷の棚田ルート)の2箇所を選定したダイジェスト版を作成しました。
上根・向山地域の“たからもの”を集めてみましたので、当地域の魅力をいっぱい感じていただければ幸いです。



広島から車で40分
千代田ICから車で20分

制作・発行 / 上根・向山地域振興会

平成27年(2015年)8月



ここでは **本郷の棚田** **上根ルート** に
含まれていないその他の見どころを紹介します。

① 分水嶺ポストの移設先
② の分水嶺ポストは、現在、根野小学校玄関に移設されています。
③ 根野小学校の時報鐘
上根三原貫十さんが昭和2年(1927年)にハワイより求め、根野小学校に寄贈され、昭和20年(1945年)まで旧校舎屋上に設置し、時報鐘として使用されていました。現在は根野小学校玄関に展示してあります。



⑥ 黄幡社
先祖の心霊を祭った社とも言われています。嘉永2年(1849年)に勧請しました。「ゆずりはトンネル」工事のため、昭和60年(1985年)11月現在地に新築しました。毎年土井行政区では9月の第3日曜日に社の清掃を実施し、祭を行っています。



⑦ 観音堂
本尊は、神根愍生師の筆になる梵字を刻した細長い自然石で、もと土井・甲田宅の裏にあったものを現在地に移しました。土井行政区では、毎年4月にお堂の清掃を実施し、お参りを行っています。



⑧ 釈迦堂
長安寺の本尊と思われる釈迦像を安置してあるので、釈迦堂と呼んでいます。昭和8年(1933年)8月再建され、毎年4月には余井行政区の人を中心に「花祭り」が行われます。



⑩ 龍山神社
「神社明細帳」によれば、主祭神は周防の国に鎮座されていたが、正平2年(1347年)「吾は安芸国根村に移る…」との神宣により、同年10月に当社(現在地)に鎮座され、以後産土神として祭られています。正徳4年(1714年)再建の棟札があり、近年では明治43年(1910年)神殿、幣殿、拜殿を再建したと棟札に残っています。



⑬ 土井・余井土地改良記念碑
平成14年(2002年)4月完成した土井・余井地区土地改良事業の記念碑です。
地区面積 14.6ha 経緯 昭和59年(1984年)6月 事業計画調査開始
整地面積 10.2ha 昭和61年(1986年)4月 事業認可
平成14年(2002年)4月 換地処分登記完了



⑭ 向山のシャクナゲ
八千代町指定天然記念物(昭和53年(1978年)指定)。本郷北部の山地の尾根付近北側一帯に長さ1km、面積4~5haにわたって、マツ、カシ、ナラ、その他雑木林の中に自生するシャクナゲの群落があり、その立地密度もかなり高くなっています。



⑨ 八幡神社
本社は、地主神社(向山)と榎山神社(向山)を大正2年(1913年)合併して現在地に遷宮しました。その後昭和25年(1950年)9月に元本郷・平原・余井の小社の祭神は龍山神社(上根)に合祀されました。昭和49年(1974年)10月幣殿・拜殿を改築されています。



⑫ 鍋調滝(潜龍峡の滝)
上根峠の大きなヘアピンカーブが根の谷川を渡る地点から根の谷川右岸沿いに約300m上がったところにあります。滝の水は約70m下流で根の谷川と合流します。この合流付近の根の谷川を堰き止めて、小学生の泳ぎ場として昭和40年代はじめて利用していました。



⑮ 上根の霧(本郷からみた)
朝、大林方面から上根峠を上って来た人は、今まで快晴であった所から急に濃霧の中に突っ込んでいく感じで視野がさげられることがあります。上根峠を過ぎて龍の川、可愛川筋と北に行くにしたがって霧が深くなります。そのため、上根峠から根の谷に通じる谷を霧切谷(キンキン谷)と名付けたといわれています。



⑪ 根野村営発電所
根野村では、大正14年(1925年)10月から村営の発電所建設に着手し、翌年の3月に完成しました。翌月の4月1日から送電の開始と同時に村内に文化の光が灯り、人々はあかあかと輝く電灯を見上げて喜び合いました。ところが昭和18年(1943年)国の方針により強制的に現在の中国電力に売却され、ついに20年の歴史をもつ村営の発電所は終わることになりました。その後中国電力は、引き続き発電をしましたが、昭和45年(1970年)3月に国から廃止許可をもらい、同年7月に建物を取り壊して、45年の歴史を了えました。現在では、落差水路の丸い口だけが往時を偲ばせています。